

# 介護ロボ、「使えない」？

SOMPOホールディングスとSOMPOケア（東京都品川区）が運営する「フューチャーケアラボ in Japan」（同）が、厚生労働省が進める介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業の「リビングラボ」に選定された。同ラボは高齢者施設を模した環境下で、ロボメーカーなどと介護ロボ開発を進めている。高齢化と職員不足を背景に、介護ロボへの関心は高いが現場からは「使えない」という声が多いのも事実。同ラボの片岡真一郎所長に解決策と今後の見通しを聞いた。

SOMPOHD「フューチャーケアラボ in Japan」

所長 片岡 真一郎氏



## 「現場の特殊性」に性能基準を

「研究所でこれまで試したロボの数は、2019年2月のオープン以来、使用を検討したロボは合計60種類。このうち、今も使っているロボは20種類だ」といふことは、導入したロボのうち3台に2台は、現在は使用していない計算になり「2019年2月のオープン以来、使用を検討したロボは合計60種類。このうち、今も使っているロボは20種類だ」といふことは、導入したロボのうち3台に2台は、現在は使用していない計算になり

機種。このうち、今も使っているロボは20機種だ」といふことは、導入したロボのうち3台に2台は、現在は使用していない計算になり

「研究現場の特殊性。高齢者の入浴状況中では、基準性能を満たしているから問題ない」と考える会社がある。介護現場の特殊性を説明して耐久性を上げると、今度は価格が高くなる。どこまで

「現場の特殊性」に性能基準を

「研究現場の特殊性。高齢者の入浴状況中では、基準性能を満たしているから問題ない」と考える会社がある。介護現場の特殊性を説明して耐久性を上げると、今度は価格が高くなる。どこまで

「現場の特殊性」に性能基準を

「研究現場の特殊性。高齢者の入浴状況中では、基準性能を満たしているから問題ない」と考える会社がある。介護現場の特殊性を説明して耐久性を上げると、今度は価格が高くなる。どこまで

### 記者の目

体温、血圧測定など定性的情報を扱う機器は一定の効果を出している一方、衣服着脱や排泄介助などのロボは難易度が高い。人間の尊厳に直接かわる上、高齢者の体調や心理に左右される問題もある。ただロボならヘルパーの性別を気にする必要がなく、ウイルスなどの感染防止が期待できる長所もある。費用対効果の高いのは事実だが、開発意義はある。（編集委員・嶋田歩）

### 性別不問・感染防止など長所